

7月25日から27日、東京ビッグサイトで開催

「儲かる農業」を提案

2年ごとの開催で2回目

一般社団法人日本施設園芸協会(篠原温会長)は6月4日、今年の7月25日から27日までの3日間、東京ビッグサイトで開催される施設園芸・植物工場展2012(GPEC)について記者発表した。



木田名誉会長

同展は施設園芸と植物工場に特化した国内唯一の専門展示会で、2年ごとの開催となっており、今回で2回目。最新のハウス栽培関連資材や、植物工場(太陽光利用型・完全人工光型)に関する製品技術・情報が一堂に集まることから、生産者を中心に話題を集めている。

また植物工場では、東日本大震災でもすぐに設置可能な大型コンテナタイプや外食店舗に設置できる小型タイプまで、用途に応じた展示もなされる。さらに、収量アップ



一昨年の開会式

ブ・品質・向上・コスト削減などによる「儲かる農業」の提案が数多く予定されている。同協会の木田滋樹名誉会長は「初の開催となった前回は予想を上回る成果をあげることができた。今回も前回と比べ出展者7割増・小間数5割増と、期待の大きさをひ

盛井氏ら3名、理事に

元気農業開発機構、総会



古瀬理事長

NPO法人元気農業開発機構(古瀬洋一郎理事長)は6月5日午前11時から東京・港区の港区立エコープラザにおいて第3回理事会及び平成23年度通常総会を開催した。

総会は古瀬理事長のあいさつと感謝している。来場される生産者・関係者の皆さんには、経営・技術・農業政策・融資・海外事情まで、専門家に相談・学べる場として活用していただき、我が国の施設園芸・植物工場の明日を築き上げていただきたい」と述べた。

古瀬理事長は「今年、いろいろな職にあるが、整理してNPO法人元気農業開発機構の活動に力を注ぐ決意です」と語っていた。

微量要素と作物生産

作物に鉄欠乏を起させる原因は多くあるが、比較的起りやすい場合は以下の場合だ。①作物の根から吸収される鉄は二価鉄が多いと考えられる。このため、土壌的条件により二価鉄が少ない、あるいは二価鉄が酸化して三価鉄となってしまうと、植物に吸収されなくなる。植物体内にリンが多すぎると、リンと鉄が結合して不溶性となり、鉄の欠乏部位への体液に浸じることが立証された。

モリブデンが必要

農学博士・渋谷政夫

1930年、空気中の窒素を固定するアンモニア(単独遊離)の場合に硝酸含量が増加する例が多い。作物に吸収された硝酸は、作物体内でアンモニアにまで還元され、アミノ酸やタンパク質等に同化されるが、モリブデンは、植物体内で硝酸がアンモニアに還元する酵素の構成成分であることが1954年、ニコラス氏らによって明らかにされた。

無機態肥料の窒素形態を大別すると、硫酸アンモニアに代表されるアンモニア態窒素と硝酸石灰肥料がある。作物がアンモニアと硝酸の両者を吸収することはよく知られているが、とくに畑作物の場合に硝酸含量が増加する例が多い。

芍薬

趣味のスケッチ

絵と文 桜庭厚生



Kogin

芍薬は園芸家が好む花の一つだと聞く。親父は園芸家ではなかったが、明治生まれの花好きで、一時期、坪庭に芍薬を植えて楽しんでた。筆者は土掘りを手伝われ、その一部始終を見て、丹精込めた芍薬が艶やかな大輪を咲かせた時の満足げな親父の顔を思い出す。あれが園芸の醍醐味なのだろう。

切り花にして床の間に活けられた芍薬は、坪庭の比喩、一段と艶やかさを増す。親父は「立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花」と独り言を言いつつ、芍薬を育てていた。芍薬と重なる親父の後ろ姿が懐かしい。

筆者は園芸とは縁遠い。折々に花屋さんのお世話になっている。先日、下町の花屋さんに薔薇がゴルフボール程の大きさの三本買って来た。五百円也。

「これは安い!」と喜んでたが、ついつい「園芸家さんの取り分はいくらだろうか」と考える。土づくり、種蒔きから出荷まで大変な努力を注ぎ込んでいる筈。ゴルフボール位の大きさの薔薇は、その日のうちに半開き、翌日にはソフトボール位の大きさになり、まるで手品だ。

元気のいいうちにスケッチした。この芍薬は、雄蕊が余り大き

を理事に、他2名を参与とすることを決めた。新理事に就任した方は、五十嵐晃一氏、山元猛英氏、盛井利浩氏。参与には成瀬勝也氏と大塚晴康氏の2名が就任した。

古瀬理事長は「今年、いろいろな職にあるが、整理してNPO法人元気農業開発機構の活動に力を注ぐ決意です」と語っていた。

(つづく)